

コスモス 1月号

第71巻 第1号

◆宮柁ニカレンダ―(46) 一月の歌

たちかへる年のあしたに鳥のごと甦りくる智
識に遊ぶ
歌集『藤棚の下の小室』

昭和三十八年一月「新潟日報」に載った長歌「朱鷺幻想」への反歌の内の二首目の歌だ。長歌に込められた日本の風土への愛、滅びゆく朱鷺への慈しみを思いながら味わうと「鳥のごと」が心に沁みる。私は元旦にあの朱鷺のように蘇ってくる思い出と遊んでいます、という意味だろう。結句の「智識に遊ぶ」の固い表現は「わが思い出」と解釈した。さわさわと羽搏く翼、そのニッポニアニッポンにいつかきつと会いに行きたいと思った。

(榛葉貞代)